

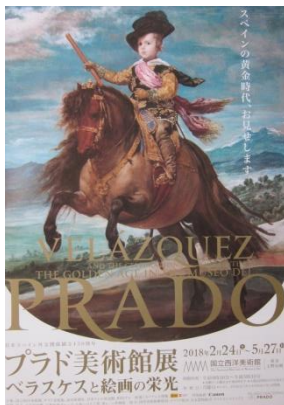
## プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光

国立西洋美術館（上野公園） 2018.02.24～05.27

「プラド美術館」は、歴代スペイン王たちの美術への熱意と好みによる収集品「7000点」を超える絵画中には、「ベラスケス」や「ゴヤ」の生涯を網羅する代表作に、「エル・グレコ」や「ムリーリョ」の宗教画、「ラファエロ」「ティツィアーノ」「ボッス」「ルーベンス」などの作品を所蔵している。また、イタリアやフランドル絵画の第一級品も含まれて、ハプスブルグとブルボンのスペイン両王朝の栄華を伝えることで、世界で最も重要かつ魅力的な美術館である。

さらに、当館は16世紀以降のスペイン王家によって収集されたスペイン、イタリア、フランドル絵画を中心に「王立美術館」として開設され、現存する「ベラスケス」作品約120点のうち「46点」を所蔵している美術館である。

「ベラスケス」は、17世紀のスペイン画家の黄金時代を体現する画家で、「フェリペ4世」専属の宮廷画家で、作品は館外への貸し出し条件が非常に厳しいが、今回は「国王の全身姿」などの大作「7点」が来日して脚光を浴びている。ディエゴ・ベラスケス《王大使バルタサール・カルロス騎馬隊》 部分 1635年頃



あどけない5～6歳の「バルダサール・カルロス王太子」が持っているのは、統治するものの証の「指揮棒」で、背景にはマドリード郊外のグアダマラ山脈が描かれている。

作品全体の色調は非常に明るく、画伯ならではの素早い筆致で輝かしさを強調した、ありのままに生の空気感を捉えた技法で、自然の表現背景である山々を描写している。

主役の王子と馬のほか、画家のセンセーションをそのまま伝えるような傑出した風景の自然表現にも、「ベラスケス」的リアリズムが随所に見られているのが特徴である。

ベラスケス《狩獵服姿のフェリペ4世》 1632～34年頃 油彩・キャンバス



国王「フェリペ4世」は、稀代の美術愛好家として知られ、3000点余の絵画作品を収集したことで知られる。

この作品は、王の趣味の獵姿を描いたもので、王の肖像画として驚くほど質素で実に穏やかであるのは、没落しつつも比較的安定していた治世の称場であるとされている。

「国王」には「質実剛健」は華美な装飾や道具立てが無くても威厳が備わっているものとの考え方を、そのまま宮廷画家である「ベラスケス」が筆で表現したものである。